

平成29年度行政評価 施策評価シート (平成28年度実績)

施策名 良好な景観の形成

施策コード 060602

1. 施策の担当	
主管課	都市整備部 都市計画課
関係課	

2. 総合計画における位置づけ			
総合計画	政策	第6章 心地よく、くつろぎを感じるまちづくり (快適・憩い)	節 第6節 景観
	施策	良好な景観の形成	

基本方針
 ・ 市民と行政が協働して、現在の良好な自然景観の保全とともに、地域特性をいかした自然環境と一体となった都市景観の形成に努めます。

現況と課題
 ・ 泉佐野市都市景観条例を策定し、豊かな自然や歴史との調和、世界に開かれた玄関都市にふさわしい魅力ある都市景観の実現をめざしています。
 ・ 良好な景観の形成の重要性に対する市民の認識度は低い状況にあり、啓発活動を推進する必要があります。

施策目標
 対象 (誰を、何を、どこを)
 市民
 意図 (どのような状態にしたいのか)
 都市景観をともに守り、育て、創り出していくことにより、地域の特性を活かし、個性を育み、誇りと愛着を感じるまちづくりを進めます。

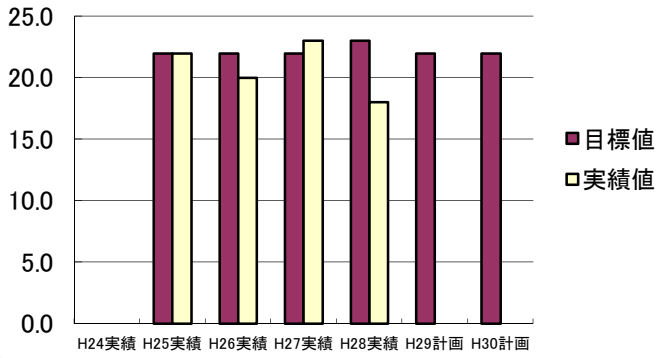
3. 市民ニーズ							
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
満足度 (偏差値)	52.0						
重要度 (偏差値)	38.1						

4. 施策にかかるコスト								
コストの内訳	人件費	千円	H27決算	H28決算				
	事業費		18,305	18,382				
	フルコスト		1,163	9,037				
財源内訳	国庫支出金	千円	19,468	27,419				
	府支出金		0	0				
	市債		1,322	437				
	その他		0	0				
	一般財源1 (=フルコスト-特定財源)		4,951	3,274				
	一般財源2 (=直接事業費-特定財源)		13,195	23,708				
			-5,110	5,326				

5. 施策の成果指標							
① 成果指標 1 都市景観大規模建築物等 (景観重点地区含む) の届出件数							
項目	H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	H29計画	H30計画
目標値		22.0	22.0	22.0	23.0	22.0	22.0
実績値		22.0	20.0	23.0	18.0		
達成度		100.0	90.9	104.5	78.2		
指標設定の根拠	目指そう値の設定根拠			目標達成・未達成の理由・背景			
都市の景観に大きな影響を与える大規模建築物等 (景観重点地区含む) の届出件数	よりよい都市景観をつくり調和のとれた魅力的な街を形成するために、これらに対して誘導基準を定め届出制度を設けており、毎年20件前後の届出受理をし、必要に応じて指導を行うものである。			毎年20件前後の届出があるが、同程度の件数で推移していくことで、良好な景観の形成につながるものとする。			

図表

成果指標①



6. 施策の事後評価

	判定項目	評価点	評価理由、今後の方向性等
一次評価 (担当課による評価)	施策の成果レベル (過去の推移、周辺市との比較なども含む)	(4点中) 1	泉佐野市都市景観条例(自主条例)を策定し景観の届出件数は順調に推移している。自主条例を持たない他市に比べて成果はでている。
	施策に対する市民ニーズ	(3点中) 2	毎年20件前後の届出で推移。
	施策を取り巻く状況 (法令等の動向、国・府の政策の動向、社会潮流など)	(3点中) 3	平成16年に景観法が公布。大阪府も「景観形成基本方針」を定めた法に基づく「景観計画」を策定する。市町村においても、地域特性に応じた景観施策を講ずることが重要とされている。
	合計点	(10点中) 6点	
	総合評価	C	平成25年2月に景観法に基づく景観行政団体となり、市域の大木地区について同年3月に景観計画を定めたところであるが、平成24年市民アンケート調査からみても、市民の景観に関する満足度、重要度が低減していることから、一層の景観施策を推進する必要がある。
二次評価(政策推進課・行財政管理課による評価)	C	引き続き、良好な景観の形成に向けて指導すること。	
三次評価(理事者による評価)	C	引き続き、良好な景観の形成に向けて、指導すること。	

7. 施策を構成する事務事業

事務事業			H28年度決算額			H29年度予算	一次評価
予算コード	事務事業名	人件費	事業費	一般財源			
1	01040400	都市計画関連業務事業	18,382	9,037	5,326	15,815	B
合計			18,382	9,037	5,326	15,815	